

<p>補助事業の実績</p>	<p>① 法学部「基礎演習」（授業科目）（他学部は前期実施済）においてキャリアガイダンスを実施し、低学年から「なりたい自分をイメージさせ、それに向かったの努力」のための意識づけを行った。</p> <p>② 職業興味検査、一般職業適性検査を実施し、それぞれの学生のやりたいことやできることは何かを「自己認識」を深める機会を提供した。</p> <p>③ 授業科目（「キャリアデザイン」「人生と進路選択」）において、外部講師による授業や、ワークショップを積極的に導入した授業を行った。</p> <p>④ キャリアセンター生涯学習課資料室の整備を行い、資格取得講座受講者の少人数ガイダンスや個人相談を行うための環境整備を図った。</p> <p>⑤ 本プログラムの取組の実施体制の整備及び取組内容を明確にするため、キャリア科目・キャリアガイダンス参加学生の「自己理解度及び職業準備度」調査を行う組織として、「キャリア委員会」（各学部代表教員とキャリア支援課職員で構成する学内組織）の中に「評価委員会」を設置する運びとなった。</p>
<p>補助事業に係る具体的な成果</p>	<p>① 法学部「基礎演習」（授業科目）（他学部は前期実施済）において、キャリアガイダンスを実施し、低学年から「なりたい自分に対して、これからの学生生活で何をどのように取り組むか」のデザインを描かせることができ学生の就職意識が向上した。また、積極的にワークショップを導入したことで、社会人基礎力の能力要素やコミュニケーション能力を高める一助となった。</p> <p>② 職業興味検査、一般職業適性検査の実施により、受検した学生が自分の好きなことと何ができるかを測定し「自己認識」を深め、高い能力要素を活かせる職業探索に進むことが可能となった。</p> <p>③ 授業科目（「キャリアデザイン」「人生と進路選択」）において、外部講師による授業や、ワークショップを積極的に導入した授業を行ったことで、職業観を体系的に育成することができた。特に「キャリアデザイン」では「ジョブインタビュー」を課し、その結果についてグループ単位でプレゼンテーションを行い、複数の仕事理解を図りコミュニケーション能力の向上に繋げることができた。</p> <p>④ キャリアセンター生涯学習課資料室の整備を行ったことにより、資格取得講座受講者の少人数ガイダンスや個人相談、更にはOBによる相談会開催のスペースが確保され、学生の利用度も上昇している。</p> <p>⑤ 「キャリア委員会」（各学部代表教員とキャリア支援課職員で構成する学内組織）の中に「評価委員会」を設置する運びとなったことにより、取組名称の中に記載した、「一教職員一体による一」という意識改善が図られた。</p>